

2023年10月31日
日本銀行決済機構局

CBDCフォーラム WG2
「追加サービスとCBDCエコシステム」
第1回会合の議事概要

1. 開催要領

(日時) 2023年9月26日(火) 14時00分～16時00分
(形式) 対面形式及びWeb会議形式
(参加者) 別紙のとおり

2. 日本銀行からの説明

- 事務局から、「【追加サービスとCBDCエコシステム】ワーキンググループ(WG2)について」¹の資料に基づいて説明を実施。その後、ディスカッションを実施。

3. 主なディスカッション

(参加者) 本WGのテーマの追加サービスは、かなりスコープの広い概念であると理解している。議論の対象や範囲については、ある程度認識を揃えておく必要があると感じる。

(日本銀行) もともと、このフォーラムは「一般利用型」のCBDCを念頭に置いており、資料の11ページに記載の通り、一旦は国内における「個人から個人」、「個人から法人」の送金という場면을念頭に置いている。その後、参加者の皆様からの要望なども踏まえながら、議論のスコープについて検討して参りたい。

(参加者) いま事務局の発言にあった「何らかのバリューを個人間や個人・法人間で移転させる」ということは、本WGの参加企業を含め多くの事業者

¹ https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/dfo231031a.pdf 参照。

が取り組んでいることであり、まずはこの程度の前提で議論は開始できるのではないか。

個人的には、スマートコントラクト機能がC B D Cでどのようにサポートされるのか、という点も議題としてあり得ると感じた。

(日本銀行) 本WGにおいては、各回においてどの領域の議論を行っているのかという点をクリアにした上で、この点が参加者に正確に共有されるようにしていきたい。

(参加者) どのように議論を進めていくかの整理は重要。まずは資料の22ページのようなイメージで進めていくことでよいのかと思っている。リテール、ホールセール、貿易決済など様々な決済サービスやプラットフォームをWG参加企業が運営するなかで、これらの事例をまずは研究し概念を整理する。次に、これらの技術的な背景について議論する。その上で、「個人から個人」、「個人から法人」といった領域をについて、どの領域を議論しているかを明確にしながらC B D Cへのインプリケーションを検討していく、といった形で順序立てて進めていけば良いと思う。

(日本銀行) WG参加企業が、たとえば、法人間の決済プラットフォームを運営していたとして、そのエコシステム運営の経験を披露して頂くことは重要と考える。まずは、参加企業の皆様の事業の経験を領域によらず共有して頂き、そこからインプリケーションを引き出す際には、国内における「個人から個人」、「個人から法人」の送金を念頭に置いて議論するということが適切かと思う。

(参加者) 対象範囲は国内のみか海外も含むのかなど、ある程度の想定が分かると、スムーズな議論が可能になると感じる。

(日本銀行) まずは国内のサービスを念頭に議論を始めることが、本WGでの議論の順番として適切と感じる。

(参加者) ルールや制度の側も、環境や状況に合わせて変化しうることを踏まえると、将来の技術動向やユーザーニーズの変化なども意識して、現在のルールのみを前提にせずに議論を進めても良いのかなという気もしているが、この点はいかがか。あまり話を広げすぎるとどうかというご意見もあると思うが、このような民間事業者を交えた自由な議論の進め方は、

個人的に非常に面白いと思ったので。

(日本銀行) 議論を進めるにあたっては、決済サービスを規律するルールのみならず、技術的な前提や、マーケットの状況など、様々なものを前提として仮置きする必要があるが、これをあまり現在の状況のみに縛ると未来志向の議論はしにくいかもしれない。将来的な状況を想像しながら、事業者として提供したいサービス、いちユーザーとしてほしいサービスのイメージを皆さんと共有することは、面白い議論につながるのではないか。

(参加者) 海外のCBDCの事例をみると、現金、電子マネー、クレジットカードではなくCBDCでなければならないという理由がまだ見えてこないと感じる。各参加企業からみえているユーザーのペイン、参加企業自身が感じるペインといったものをまずは整理し、それがCBDCの持つどのような機能で解決できるのか、という議論のアプローチもあり得ると感じた。

(日本銀行) ユーザーや事業者が感じるペインを理解することは、CBDCの意義やメリットを議論する上でも非常に重要であり、今後の本WGでも取り上げていきたい。

(参加者) これまで議論があったように、本WGでは様々な前提を仮置きしてCBDCエコシステムを考える必要があるが、そうした不確実性をWG参加企業が受け入れて議論を進めることが重要だと感じた。その上で、CBDCでなければ実現できないことは何かについて、検討する必要があると感じる。たとえば、ユニバーサルティなどの分かりやすい性質であるとか、プライバシーに特に配慮したマネーの可能性もあり得る。まずはそうした様々な可能性を、皆さんと一緒に模索していくことが重要かと思う。

(日本銀行) 追加サービスにスコープを合わせつつも、CBDCの意義やメリットの議論も意識しながら進めて参りたい。

4. 次回予定

次回の会合は10月17日(火)に開催予定。

以上

CBDCフォーラム WG2
「追加サービスとCBDCエコシステム」
第1回会合参加者

(参加者) ※五十音・アルファベット順

株式会社イオン銀行
株式会社インキュリオン
株式会社ジェーシービー
セコム株式会社
ソニー株式会社
ソフトバンク株式会社
大和証券株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
トヨタファイナンシャルサービス株式会社
株式会社トレードワルツ
ナッジ株式会社
日本電気株式会社
野村證券株式会社
株式会社野村総合研究所
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
株式会社マネーフォワード
株式会社みずほ銀行
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱 UFJ 銀行
株式会社メルペイ
株式会社横浜銀行
BIPROGY 株式会社
株式会社 BOOSTRY
株式会社 NTT ドコモ
PayPay 株式会社
株式会社 Startale Labs Japan
TIS 株式会社

(事務局)

日本銀行